

AstraZeneca PLC

2007年第3四半期・9ヶ月累計業績

「9ヶ月累計売上高は7%増、1株当中核利益8%増

通年利益目標達成に向け順調に推移」

ファイナンシャルハイライト

グループ	第3四半期 2007年	第3四半期 2006年	前年 同期比	恒常 為替	9ヶ月累計 2007年	9ヶ月累計 2006年	前年 同期比	恒常 為替
	100万ドル	100万ドル	%	%	100万ドル	100万ドル	%	%
売上高	7,150	6,516	+10	+6	21,389	19,321	+11	+7
営業利益	2,022	2,106	-4	-7	6,165	6,213	-1	-3
税引前利益	1,888	2,187	-14	-16	6,146	6,440	-5	-7
1株当たり利益	\$0.91	\$1.01	-11	-13	\$2.88	\$2.93	-2	-4
1株当中核利益*	\$1.04	\$1.03	+1	-2	\$3.28	\$2.98	+10	+8

*: 1株当中核利益 (Core EPS) は当社の業績を理解する上で有益であると当社経営陣が信じるIFRS (国際財務報告基準) に準じない代替指標です。この指標は以下を控除することで調整されています: 事業再編コスト \$0.06 (第3四半期) および \$0.28 (9ヶ月累計)、企業買収 (MedImmune等) に派生する重要無形資産の償却費用 \$0.05 (第3四半期) および \$0.07 (9ヶ月累計)、米国におけるメルク社との提携終了に関連する現在および将来の取り決めに関する無形資産の償却費用 \$0.02 (第3四半期) および \$0.05 (9ヶ月累計)。

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)

- 第3四半期の売上高は6%増の71億5,000万ドルでした。Toprol-XL™の米国の売上を本年および昨年の第3四半期から控除すると、売上は9%増でした。MedImmuneの参入により売上は2%増加しました。
- 第3四半期の営業利益は7%減の20億2,200万ドルでした。営業利益は、事業再編費用1億4,600万ドルおよび予想される季節的な売上減と無形資産の償却を伴うMedImmuneの参入による2億1,200万ドル減によりマイナスの影響を受けました。
- 9ヶ月累計売上高は7%増の213億8,900万ドルでした。営業利益は3%減の61億6,500万ドルでした。営業利益は事業再編費用6億400万ドルおよびMedImmune参入による営業損失3億1,500万ドルによりマイナスの影響を受けました。
- 9ヶ月累計の買収前のフリーキャッシュフローは36億700万ドルでした。株主への現金配分は、買い戻された株の総額31億3,200万ドルを含む57億7,300万ドルでした。
- 2つの化合物 (疼痛治療薬PN400と脂質異常治療薬クレストール™/ABT-335固定用量配合剤) が第III相に進み、第III相にある品目は合計10品目となりました。
- セロクエルXR™が8月に米国で発売され、欧州での最初の承認を8月29日にオランダで取得しました。
- 5つの主力製品の売上合計は9ヶ月累計で14%伸長しました。Nexium™ (2%増)、セロクエル™ (15%増)、クレストール™ (39%増)、アリミデックス™ (11%増)、Symbicort™ (23%増)。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました: 「当社は引き続き重要な優先課題において進捗を果たしました: 通年の利益目標達成に向けて事業は順調に推移しており、全社を挙げて生産性の向上を推進し、開発第III相に新たに2つの製品が移行するなどパイプラインも更に強化されました。」

2007年11月1日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

第3四半期

第3四半期の売上高はCER（恒常為替レート）ベースで6%増、報告ベースで10%増加しました（為替変動のプラス影響4%を含む）。全体の売上増の2%はMedImmune社の売上によるものです。昨年と本年のToprol-XL™の米国内での売上を控除すると、第3四半期の売上高は9%増でした。米国の売上高は、競合するToprol-XL™後発品の影響を受け、3%増でした。米国以外の売上高は、新興市場の14%の成長に牽引され、全体で9%増でした。

第3四半期の営業利益は7%減の20億2,200万ドルでした。1億4,600万ドルの事業再編費用を控除すると、当期の営業利益は横ばいでした。MedImmune社分の加算により、営業利益は2億1,200万ドル減少しました。この利益の低下は季節的な売上減と無形資産の償却のほか、買収後のパイプラインの合理化費用を反映しています。さらに、米国市場でToprol-XL™の後発品の競合が本格化したことも影響しています。

研究開発費は32%増の13億3,500万ドルでした。この増加分の18%はMedImmune社関連費用および事業再編費用によるものです。

第3四半期の販売・一般管理費は、10%増の24億8,700万ドルでした。MedImmune社の買収に伴う償却や他の販売・一般管理費および事業再編費用を控除すると、当四半期の販売・一般管理費は3%減でした。

1株当たり利益は前年同期1.01ドルに対して、当四半期は0.91ドルでした。

第3四半期のNexium™の売上高は1%減の12億9,300万ドルでした。米国の売上高は3%減少しました。Nexium™は米国先発PPI市場でのシェアを引き続き拡大していますが、価格低下およびオメプラゾールの競合後発品による影響の増大を相殺することはできませんでした。他の市場でのNexium™の売上高は3%増加しました。

セロクエル™の当四半期の売上高は22%増の10億5,500万ドルで、四半期の売上高が初めて10億ドルを超えました。米国の売上高は24%増加し、これにはセロクエル XR™の8月の発売に先駆けた在庫用出荷分が含まれます。セロクエル XR™は8月29日にオランダで承認を取得し、これにより、今後相互承認手続きを通じて、欧州諸国で承認を取得することが可能になりました。米国以外の売上高は17%増でした。

第3四半期の Crestor™ の売上高は、25%増の6億9,100万ドルでした。米国の売上高は14%増の3億4,200万ドルで、シンバスタチン後発品の好調な伸びにもかかわらず、市場のシェアは安定基調を維持しています。米国以外の売上高は40%増加し、3億4,900万ドルでした。

アリミデックス™の当四半期の売上高は全体で7%増の4億2,500万ドルであり、米国で7%増、米国以外の市場で8%増でした。

第3四半期のSymbicort™の売上高は、25%増の3億7,100万ドルでした。米国で6月26日に上市しました。米国では、10月19日終了週に、新たに固定用量合剤療法を開始した患者におけるSymbicort™のシェアは9.8%に達し、合剤の新規処方数全体に占めるシェアは4.6%でした。米国以外の売上高は24%増加しました。

9カ月累計

9カ月累計売上高は、CERベースで7%増、報告ベースでは11%増でした。為替変動が報告ベースの売上高に4%のプラス影響を与えました。6月1日から算入したMedImmune社分の加算は、全体の伸び率の1%未満です。本年と前年の9カ月累計からToprol-XL™の米国売上高を控除すると、売上高は前年比9%増でした。米国および他の市場の売上高は9カ月累計でいずれも7%増加しました。

9カ月累計の営業利益は3%減の61億6,500万ドルでした。9カ月累計の事業再編費用6億400万ドルを控除すると、営業利益は7%増でした。9カ月累計の1株当たり利益は、前年同期2.93ドルに対して2.88ドルでした（事業再編費用0.28ドルを含む）。

生産性の向上

本年の初めに発表した広範囲に及ぶ生産性向上の取り組みにより、第3四半期の事業再編費用は1億4,600万ドルとなり、9カ月累計では6億400万ドルに達しました。従業員との協議プロセスが成功裡に完了すれば、通年で当該費用は約9億ドルに達すると予想しています。

今後の見通し

事業環境が厳しさを増す中、当社の業績は引き続き好調です。MedImmune社の連結による売上増および米国のToprol-XL™の売上減を考慮に入れ、通年の売上成長率はCERベースで7～8%と予想しています。

1株当たり利益の目標額は依然、3.60～3.75ドルの範囲ですが、これには事業再編費用と米国内のToprol-XL™の売上減を含みません。米国市場でToprol-XL™の後発品の競合が本格化すれば、米国でのToprol-XL™による減少額は通年で0.38ドル程度と予想されます。これを含め、事業再編費用を控除した場合、1株当たり利益の目標額は3.98～4.13ドルとなります。

9カ月累計の事業再編費用は6億400万ドルでした（1株当たり0.28ドル）。通年の予想額である9億ドル（1株当たり0.44ドル）が実際支出されるかは、従業員との協議プロセスのタイミング次第です。

注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、Toprol-XL™の後発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストール™、Nexium™、セロクエル™、Symbicort™、アリミデックス™）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確定要素については、2006年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)。

消化器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
Nexium™	1,293	1,280	-1	3,913	3,752	+2
Losec™/Prilosec™ (オメプラール)	268	324	-20	845	1,024	-20
合計	1,581	1,625	-5	4,818	4,830	-3

- 米国でのNexium™の当四半期売上高は8億5,100万ドルで、前年同期比3%減でした。米国PPI市場の総処方数に占めるシェアは9月に22.7%で、先発品市場では依然シェアを拡大しましたが、オメプラール™の後発品の好調な伸びと価格低下の影響を相殺することはできませんでした。予想された当期の基本需要に変化はなく、処方錠剤量の2%減は、小売以外の販路による販売量の増加によって相殺されました。
- Nexium™の米国における9カ月累計の売上高は1%増の25億6,800万ドルでした。
- 第3四半期の米国以外でのNexium™売上高は3%増加しました。新興市場の売上高は34%増加し、西ヨーロッパの8%減を相殺して余りあるものとなりました。
- Nexium™の米国以外での9カ月累計売上高は3%増でした。
- 米国でのPrilosec™の売上高は9カ月で8%増加し、他市場でのLosec™の売上高は25%減少しましたが、日本 (オメプラール™) および中国では売上が伸びました。

循環器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
クレストール™	691	536	+25	1,997	1,403	+39
Seloken™ /Toprol-XL™ (セロケン)	328	473	-33	1,229	1,407	-14
Atacand™	320	279	+8	934	809	+10
ゼストリル™	72	76	-11	228	229	-6
Plendil™ (スプレンジール)	66	68	-9	205	210	-8
合計	1,621	1,579	-1	5,029	4,509	+8

- 第3四半期のクレストール™の米国での売上高は3億4,200万ドルに達し、前年比14%増でした。米国スタチン市場における総処方数は当期に7%増加し、クレストール™の処方数は15%増加しました。シンバスタチン™の成長は引き続き堅調ですが、米国スタチン市場の総処方数に占めるクレストール™のシェアは9月に8.6%で安定しており、2007年に入ってこれまで6ポイント以上のシェア拡大を実現しています。
- クレストール™の米国売上高の9カ月累計額は31%増の10億3,800万ドルでした。
- 米国以外の市場では、第3四半期のクレストール™の売上高は40%増の3億4,900万ドルでした。売上高は西ヨーロッパで20%増、カナダで45%増でした。
- スタチン市場におけるクレストール™の販売量ベースのシェアは現在、カナダで20.1%、オランダで12.1%、イタリアで20.4%、フランスで14.9%です。
- 日本でのクレストール™の販売状況は順調であり、2007年8月の販売量の市場シェアは7.3%に達しました。
- 認可後発品の売上を含むToprol-XL™製品系列の米国内売上高は、2007年8月からすべての力価が後発品の競合の対象となったことから、当四半期に43%減少し、9カ月累計で20%減少しました。後発製品は当四半期の処方数の57%を占めました。

- 他の市場におけるセロケンの売上高は、新興市場の成長に支えられ、第3四半期で6%、9カ月累計で7%増でした。
- Atacand™の米国内売上高は当四半期に7%減、9カ月累計では1%増でした。
- 他の市場でのAtacand™の売上高は当四半期に13%増、9カ月累計では12%増でした。

呼吸器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
Symbicort™	371	276	+25	1,139	861	+23
パルミコート™	286	263	+6	1,007	892	+11
Rhinocort™	80	83	-7	267	270	-4
アコレート™	19	20	-5	57	59	-3
Oxis™	18	21	-24	64	65	-9
Synagis™ *	122	-	n/m	138	-	n/m
FluMist™ *	-	-	-	-	-	-
合計	935	696	+29	2,793	2,252	+19

* これらMedImmune社製品の売上高は、2007年6月1日よりアストラゼネカの会計に連結されました。結果として、それ以前の期間の売上高は含まれていません。

- Symbicort™の売上高は米国以外の市場で24%増、全体で25%増の3億7,100万ドルでした。COPD（慢性閉塞性肺疾患）への処方の増加ならびに喘息市場のシェア拡大によって、欧州での成長に拍車がかかる一方、Symbicort™ SMART™の導入の影響が出始めています。
- 米国のSymbicort™の売上高は、第2四半期に販売した発売時の在庫品3,000万ドルに続いて、第3四半期は400万ドルでした。6月終わりの発売以来、情報提供を行ったアレルギー専門医の約半数および肺呼吸器科の専門医の3分の1がSymbicort™を処方しました。10月19日終了週で、固定用量合剤の新規処方数に占めるSymbicort™のシェアは4.6%であり、新たに合剤の使用を開始した患者の市場シェアは9.8%に達しました。
- Symbicort™の世界全体の売上高は9カ月累計で23%増の11億3,900万ドルでした。
- 米国でのパルミコート™の売上高は第3四半期で12%増、本年度は現在までに16%増加しました。パルミコート™吸入液の売上高は第3四半期に24%増を記録し、販売量の推定成長率は18%でした。
- 米国以外の市場におけるパルミコート™の売上高は第3四半期に2%減、9カ月累計では1%増でした。
- Rhinocort™Aquaの米国での9カ月累計売上高は8%減、総処方数は15%減でした。
- Synagis™の第3四半期の売上高は1億2,200万ドルでした。このうち米国内の売上高が5,600万ドル、米国以外の売上高は6,600万ドルでした。当社の前年同期の決算書には、この製品の売上高は記録されていませんが、Synagis™の売上は季節変動が大きく、売上の大半が第4四半期と第1四半期に集中することを考えると、同製品の年間売上高は前年を9%上回ると推定されます。

オンコロジー

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
アリミデックス™	425	382	+7	1,256	1,096	+11
カソデックス™	324	299	+5	965	879	+6
ゾラデックス™	273	255	+2	797	736	+4
イレッサ™	55	62	-11	168	174	-3
Faslodex™	54	47	+11	156	138	+9
ノルバデックス™	20	21	-10	59	66	-12
Ethyol™ *	19	-	n/m	27	-	n/m
合計	1,189	1,076	+7	3,480	3,105	+8

* このMedImmune社製品の売上高は、2007年6月1日よりアストラゼネカの会計に連結されました。結果として、それ以前の期間の売上高は含まれていません。

- 当四半期の米国市場でのアリミデックス™の売上高は7%増加し、1億6,700万ドルに達しました。アリミデックス™は乳がん内分泌療法の新規処方数の38.3%を占め、依然マーケットリーダーの地位を維持しています。9カ月累計売上高は15%増加し、総処方数は前年比6%アップとなりました。
- 米国以外の市場におけるアリミデックス™の売上高は第3四半期に8%、9カ月累計で7%増加しました。
- カソデックス™の米国の売上高は当期1%減でしたが、9カ月累計では3%増を記録しました。
- 米国以外の市場でのカソデックス™の売上高は、第3四半期および9カ月累計とも7%増となりました。9カ月累計の売上高は日本で13%増、西ヨーロッパで6%増でした。
- イレッサ™の売上高は9カ月累計で3%減少しましたが、日本で4%増、中国で16%増でした。
- Faslodex™の売上高は9カ月累計で9%増加し、西ヨーロッパで10%増、新興市場では29%増でした。

ニューロサイエンス

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
セロクエル™	1,055	848	+22	2,941	2,504	+15
ゾーミッグ™	107	99	+5	320	295	+5
合計	1,371	1,150	+16	3,891	3,464	+10

- 当四半期の米国市場でのセロクエル™の売上高は24%増の7億6,000万ドルでした。当期の売上には、8月20日から始まった新規製剤セロクエルXR™の本格的プロモーション活動に先駆け、在庫用に出荷した8,000万ドルが含まれます。9カ月累計売上高は15%増でした。9カ月間の総処方数は前年を10%上回り、市場成長率の2倍の伸びを示しました。米国内の抗精神病薬の新規処方数に占めるセロクエル™のシェアは9月に31.4%で、第一位でした。
- 他市場でのセロクエル™の売上高は第3四半期および9カ月累計ともに17%増加しました。
- ゾーミッグの9カ月累計売上高は5%増加し、米国および他市場ともに同じ成長率を達成しました。

地域別売上

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2007	2006		2007	2006	
北米	3,485	3,355	+3	10,515	9,827	+7
米国	3,199	3,100	+3	9,701	9,059	+7
ROWの既成市場*	2,791	2,445	+8	8,297	7,386	+5
ROWの新興市場	874	716	+14	2,577	2,108	+16

* ROW (その他) の既成市場には西ヨーロッパ諸国 (フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど)、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国市場での第3四半期の売上高は、セロクエル™およびクレストール™の成長に加え、MedImmune社分の加算によって、Toprol-XL™の売上減が相殺され、全体で3%増となりました。当年と前年の第3四半期からToprol-XL™の販売成績を控除すると、売上高は9%増となります。
- ROWの既成市場における売上高は、第3四半期で8%増加しました。西ヨーロッパの売上高はSymbicort™、クレストール™およびセロクエル™の成長とともに、Synagis™の売上の算入により6%増加しました。Synagis™の売上を控除すると、西ヨーロッパの売上高は3%増でした。日本市場では10%の伸びを示し、この増加率の3分の2はクレストール™およびオンコロジー製品が占めました。
- 第3四半期の新興市場での売上高は14%増加しました。当四半期における欧州新興市場での売上高は16%増、中国での売上高は25%増でした。

営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第3四半期

報告ベースで売上高は10%増、営業利益は4%減でした。恒常為替レート（CER）ベースでは売上高は6%増、営業利益は7%減でした。MedImmune社買収による影響と事業再編費用を控除すると、営業利益は10%増加しました。

第3四半期	営業利益 100万ドル	CER (%)	1株当たり 利益	CER (%)
報告ベース	2,022	-7	\$0.91	-13
MedImmune社関連費用	212	n/a	\$0.23	n/a
事業再編費用	146	n/a	\$0.06	n/a
実質	2,380	+10	\$1.20	+16

為替変動により売上高は4%増、営業利益も3%増でした。前年同期に比べると、ドルはユーロに対して7%弱く、そのために売上高が増加しましたが、スウェーデン کرونا（7%）および英ポンド（7%）に対しても弱かったために、費用も増加しました。これらの為替変動の結果、当期の1株当たり利益は0.02ドル増加しました。

米国の売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益、在庫変動および引当金の推移などの要因を調整後も、報告ベースの成長率3%をやや上回っています。米国以外の売上高は9%増加しました。

第3四半期の営業利益率は報告ベースで28.3%でした。MedImmune社の営業損失2億1,200万ドルと事業再編費用1億4,600万ドルを控除すると、実質営業利益率は34.0%で、2006年同期と比べて1.7ポイント増でした（下表参照）。

第3四半期	報告ベース (%)	事業再編費用 100万ドル	MedImmune 社関連費用 100万ドル	実質 (%)	前年同期比 ¹
売上総利益	79.8	(39)	88	80.7	+1.3
物流費	0.8	-	(1)	0.7	+0.1
研究開発費	18.7	(8)	(167)	16.6	-1.8
販売・一般管理費	34.8	(99)	(193)	31.3	+2.1
その他の営業収入	2.8	-	61	1.9	-
営業利益	28.3	(146)	(212)	34.0	+1.7

第3四半期の実質売上総利益率80.7%は、前年同期比1.3ポイント増でした。売上高の4.0%であるメルク社への支払い率は前年よりも0.8ポイント低下しました。為替による0.2ポイント増により、ライセンス料の増加による0.2ポイントのマイナス影響を相殺しました。これら追加要因の影響を控除すると、売上総利益率は継続的な業務効率の向上により、0.5ポイント増加しました。

当四半期における実質研究開発費11億6,000万ドルは、主に、研究開発活動の増加ならびに、特に、プリストル・マイヤーズ スクイブとの業務提携に関連した社外提携戦略の影響により、前年同期比14%増となりました。

実質販売・一般管理費21億9,500万ドルは、営業・マーケティング活動の業務効率化が推進されたため2006年第3四半期より3%減となりました。MedImmune社の併合により、1億500万ドルの無形資産償却を含め、1億9,300万ドルの追加となりました。

¹ 正数は前年同期に対する営業利益へのプラスの影響を示す。

その他営業収入1億3,600万ドルは2006年の第3四半期より1,200万ドル増加しました。MedImmune社関連の他の収入は6,100万ドルでした。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます；当四半期の正味利益は3,100万ドルでした（前年同期は1,600万ドルの損失）。公正価格損失額700万ドルは損益計算書上別の項目に計上されました。

9ヶ月累計

報告ベースで売上高は11%増、営業利益は1%減でした。恒常為替レート（CER）ベースでは売上高は7%増、営業利益は3%減となりました。MedImmune社買収による影響と事業再編費用を控除すると、営業利益は12%増でした。

9ヶ月累計	営業利益 100万ドル	CER (%)	1株当たり 利益	CER (%)
報告ベース	6,165	-3	\$2.88	-4
MedImmune社関連費用	315	n/a	\$0.29	n/a
事業再編費用	604	n/a	\$0.28	n/a
実質	7,084	+12	\$3.45	+16

為替変動により売上高は報告ベースで4%増、営業利益は2%増でした。累計で、為替により1株当たり利益は0.05ドル増加しました。今後為替レートが変動しなければ、本年1株当たり利益に対し、これ以上の為替差益は発生しないものと予想されます。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益、在庫変動および引当金の推移などの要因を調整後も、報告ベースの成長率の7%とほぼ一致します。米国以外の売上高は7%増でした。

9ヶ月累計の営業利益率は報告ベースで28.8%でした。MedImmune社関連費用3億1,500万ドルと事業再編費用6億400万ドルを控除すると、実質営業利益率は2006年より1.2ポイント増の33.4%でした（下表参照）。

9ヶ月累計	報告ベース %	事業再編費用 100万ドル	MedImmune社関連費用 100万ドル	実質 (%)	前年同期比 ²
売上総利益	78.5	(320)	106	80.1	+0.7
物流費	0.9	-	(2)	0.8	-
研究開発費	17.4	(37)	(195)	16.5	-2.1
販売・一般管理費	34.2	(247)	(313)	31.8	+2.3
その他の営業収入	2.8	-	89	2.4	+0.3
営業利益	28.8	(604)	(315)	33.4	+1.2

実質売上総利益率は80.1%で年同期より0.7ポイント上昇しました。売上高の4.2%であるメルク社への支払い率は前年よりも0.5ポイント低下しました。為替の影響で売上総利益率は0.4ポイント増加し、ライセンス料の支払い増により0.3ポイント減少しました。これらの追加要因の影響をすべて控除すると、売上総利益率は前年比0.1ポイント増加しました。

主に業務量の増加、アウトソーシング戦略の影響により2007年9ヶ月累計の実質研究開発費は前年同期比18%増の34億9,800万ドルでした。事業再編費用とMedImmune社関連費用を除く販売・一般管理費は、2006年の第3四半期より2%減となりました。

² 正数は前年同期に対する営業利益へのプラスの影響を示す。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます。9ヶ月累計の正味利益は4,000万ドルでした（前年同期は3,600万ドルの損失）。その他の公正価格損失分1,800万ドルは損益計算書上別の項目に計上されました。

事業再編費用

事業の長期効率化を図るために実施される様々な生産性向上計画については、上半期終了時に詳細を報告しました。9月30日現在、これに関連して以下の費用が発生しています。

	第3四半期 100万ドル	9月30日 計上分 100万ドル
売上総利益		
グローバルサプライチェーン	39	320
研究開発費		
臨床、薬事および疾患領域戦略の再編費用	8	37
販売・一般管理費		
欧州営業組織再編費用	22	168
ISおよび事業インフラ	77	79
合計（報告ベース）	146	604
うち現金費用:	73	512

プログラムはすべて計画通りに進行しており、各プログラムに伴う費用と利益の総額は第2四半期のニュースリリースに示した指針に従って予測しています。

Toprol-XL™

9カ月累計においては、Toprol-XL™ は、米国売上8億8,300万ドル（2006年11億500万ドル）、1株当たり利益0.35ドル（2006年0.40ドル）寄与しました。第3四半期に入り、Toprol-XL™の全力価製品が後発品との競合の対象となりました。Toprol-XL™を当期と前年の9カ月累計から控除すると、売上は9%増（報告ベースで7%増）、1株当たり利益は3%減（報告ベースでは4%減）となります。同様に、第3四半期は、売上は9%増（報告ベースでは6%増）で、1株当たり利益は9%減（報告ベースでは13%減）となります。

受取利息と支払利息

第3四半期の利息の純損失額は1億3,400万ドル（2006年8,100万ドルの利益）であり、9カ月累計では1,900万ドル（2006年2億2,700万ドルの利益）でした。前年比の減少は主にMedImmune社買収のための借入れによる借入利息（第3四半期1億9,100万ドル；9カ月累計2億4,300万ドル）の増加によります。報告額には、IAS（国際会計基準）19号「従業員給付」に規定の従業員給付基金の資産と負債による利息収入として、第3四半期500万ドル（2006年1,100万ドル）、9カ月累計2,100万ドル（2006年3,500万ドル）を含みます。

税金

本年第3四半期の実効税率は28.4%（2006年27.2%）、9カ月累計では29.2%でした（2006年28.3%）。通年の税率は約29%と予想されます。

キャッシュフロー

9カ月累計のフリーキャッシュフロー（買収または株主への分配に利用できる正味現金流入額）は、2006年の47億9,300万ドルに対して、36億700万ドルでした。

営業活動による現金収入は45億1,200万ドルであり、2006年から10億2,100万ドル減少しました。この差は、主に必要運転資金の増加8億8,500万ドルと税金の追加支払額6億9,800万ドルから退職引当金に関連する現金以外の払い戻し額4億3,800万ドルを相殺した結果です。

当期の投資事業による正味現金支出は2006年の5億5,700万ドルに対して、144億6,000万ドルでした。これは主に買収（MedImmune社およびArrow Therapeutics社）に伴う148億1,400万ドルの現金支出によるものです。

株主への利益還元額は57億7,300万ドルでした（正味株式買い戻し額31億3,200万ドルと配当金26億4,100万ドル）

投資

8月に当社は、CyDex Captisol®使用可能ブデソニド吸入液および特許アルブテロール製剤の北米での権利を含むVerus Pharmaceuticals社の小児喘息事業を3,400万ドルで買収しました。このプログラムの買収により、当社は小児喘息の分野におけるリーダーとしての地位をさらに強固にすることができます。

9月には、POZEN社との共同開発契約に基づき、疼痛治療薬としてのエソメプラゾールとナプロキセンを含有する固定用量合剤の開発において、さらに3,000万ドルのマイルストーンの支払いを行いました。このマイルストーンは修正契約の履行およびPOC（proof of concept）が達成されたとの認識に基づくものです。

9月に当社のアストラテックグループは、7,100万ドルを投じてAtlantis Components社を買収することを発表し、この買収は10月10日に完了しました。取得した無形資産はカスタマイズ歯科インプラント支台の設計と製造に用いる専門CAD/CAM技術であり、これにより歯科インプラント分野でのアストラテックの製品ポートフォリオが更に拡充されます。

10月に双方合意のうえ、代謝型グルタミン酸受容体（mGluRs）を標的とする医薬品の発見と開発を目的としたNPS Pharmaceuticals社との業務提携を終了することを決定しました。これに伴い、当社は、提携に関連するNPSの資産を3,000万ドルで買い取ることに合意しました。

1株当たり中核利益

当社の経営陣は、株主への還元を生み出す当社の能力を理解していただく情報として1株当たり中核利益を開示することによって、投資家の方々が当社の実績への理解を深めていただけると信じています。1株当たり中核利益という指標は、再編および相乗効果プログラム、企業買収による多額の無形資産の償却および米国での現在および将来にわたる既存業務提携などに関わる費用および引当金等その他特定項目を除外し、調整するためのものです。1株当たり中核利益は、IFRS（国際財務報告基準）に沿った1株当たり利益ではありませんので、そのように見なされるべきではありません。

1株当たり利益を調整した第3四半期および9カ月累計1株当たり中核利益を以下に示します。

	第3四半期 2007	第3四半期 2006	CER (%)	9ヶ月累計 2007	9ヶ月累計 2006	CER (%)
1株当たり利益	\$0.91	\$1.01	-13	\$2.88	\$2.93	-4
事業再編費用	\$0.06	-	n/a	\$0.28	-	n/a
無形資産の償却						
MedImmune社の買収	\$0.05	-	n/a	\$0.07	-	n/a
メルク社との業務提携	\$0.02	\$0.02	n/a	\$0.05	\$0.05	n/a
1株当たり中核利益	\$1.04	\$1.03	-2	\$3.28	\$2.98	+8

負債と資本の構造

9月にMedImmune社の買収資金として短期借入金を再調達するため、額面約79億ドルの社債を発行しました。再調達資金の内訳は4トランシェSEC Global債の69億ドルと、新しいユーロMTNプログラム（Euro Medium Term Note Programme）発行のユーロ債券7億5,000万ユーロです。

詳細は以下の通りです。

- 2009年償還の変動金利債6億5,000万ドル
- 2012年償還の金利5.4%債17億5,000万ドル
- 2017年償還の金利5.9%債17億5,000万ドル
- 2037年償還の金利6.45%債27億5,000万ドル
- 2015年償還の金利5.125%債7億5,000万ユーロ

2007年9月30日現在、未払い負債総額（ローンおよび短期借入金を含む）は143億1,400万ドルで、このうち89億9,400万ドルは長期（12カ月を超える）負債です。正味未払い負債額は108億6,700万ドルです。

株の買い戻しプログラム

第3四半期に総額11億3,400万ドルを投じて、2,260万株を買い戻し、償却しました。本年度は現在までに総額32億9,400万ドルで合計6,160万株を買い戻したことになります。株式選択権の行使を考慮し、9カ月間に総額1億6,200万ドルで350万株を発行しました。

2007年9月30日現在の発行済株式総数は14億7,400万株です。

将来の利息収入の推定額にもとづき、株式買い戻しプログラムによって1株当たり利益は0.06ドル増額したことになります。

最新の研究開発パイプライン

この第3四半期に2つの化合物が第III相に進み、第III相にある品目は合計10品目となりました。

- 慢性NSAID（非ステロイド性消炎鎮痛薬）療法が必要であるが、NSAIDによる潰瘍のリスクのある患者の疼痛治療に用いるPOZEN社との共同開発新薬PN400
- 当社のクレストール™とAbbott社の次世代フェノフィブラートとの固定用量配合剤クレストール™/ABT-335。この配合剤は、一つの錠剤の服用で、LDLおよびトリグリセリドを低下させる一方、HDLを上昇させる作用において、それぞれの薬剤を別々に服用するよりも高い効果が期待されます。

セロクエルXR™の承認を8月29日にオランダで取得しました。今後、相互承認手続きを通じて、欧州各国で同承認を取得していく予定です。セロクエルXR™はまた9月27日にカナダでも承認を取得しました。

カレンダー

2007年12月7日	バイオ医薬品に関するビジネスレビュー
2008年1月31日	2007年第4四半期・通年業績発表

最高経営責任者
David Brennan